

## 自己評価報告書

平成 23年 4月 8日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20720105

研究課題名 (和文) 中世ロシア語文献における教会スラヴ語的要素の用法の変遷

研究課題名 (英文) On the usage of Slavonisms in Old Russian texts

研究代表者 丸山 由紀子

(MARUYAMA YUKIKO )

東京外国語大学・外国語学部・研究員

研究者番号：20401432

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：ロシア語

## 1. 研究計画の概要

中期ロシア語 (15-17 世紀) 文献について、教会スラヴ語的要素の一つである双数形の用法を詳細に分析することで、話し言葉に基盤を持たない言語形態が書き言葉においていかに継承・変容されるか明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

15 世紀に成立した以下の聖者伝の分析を行った。

- (1) ペルミのステファン伝 (エピファニイ・プレムードルイ作)
- (2) ラドネシのセルギー伝

①詳細版 (前半はエピファニイ・プレムードルイによるテキスト、後半はパホーミイ・セルプによるテキストとされる)

②パホーミイによる諸系統本

研究手法の特徴は次の通り。

- (1) 分析には基本的に写本を使用することで、より正確な言語的特徴を把握した (一部、写本閲覧が困難なものは刊行テキストを使用)。
- (2) 双数形の使用が想定されるテキストをすべて抽出した、全数調査。
- (3) 文法・語彙レベルとテキストレベルの2段階で分析。

分析の結果、エピファニイによる「ステファン伝」と「セルギー伝」ではペアをなす身体部位を表す名詞、数詞2と結合する名詞、また両者を修飾する形容詞は常に双数形が用いられ、これらの場合はロシア教会スラヴ語の伝統が遵守されていることが明らかになった。一方、名詞 *родитель*「両親」、3 人称代名詞、動詞は、「ステファン伝」では基本的に双数形が用いられるものの、「セルギー伝」では複数形の使用が散見される。すなわち、後者

には「ステファン伝」には含まれない「夢見」をテーマにしたエピソードを数多く含むが、そこでは他のエピソードとは異なり、神や聖母に接した人間を描く際に、複数形が多用される。つまり、筆者は双数形を作品内容をより効果的に伝えるための言語手段として使用したと考えられる。

なお、比較のために「クロプスコのミハイル伝」(15 世紀)、「ヤレニクスクのヨハネとロギンの物語」(16-17 世紀)、「大貴族夫人モローゾヴァの物語」(17 世紀)も検討した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

15 世紀を代表する文筆家エピファニイ・プレムードルイの代表作である二つの聖者伝の分析を終えることが出来た。また、本研究の成果を国内のみならず国外でも広くアピールすることを目標にしていたが、日本、ロシア、アジアでの学会で報告を行い、またロシア科学アカデミー発刊の有力査読雑誌に論文掲載が決定したことは、大きな成果と考える。

## 4. 今後の研究の推進方策

15 世紀の重要な文筆家であるパホーミイの作品を分析し、この時代の双数形の用法をより多角的に明らかにする。また、9 月にはモスクワで開催される国際学会に参加し、成果を発表し、また今後の研究のための資料収集、写本閲覧を行う予定である。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Ю. Маруяма, К вопросу о распределении форм двойственного числа в русских житийных памятниках начала XV в. (на материале «Жития Стефана Пермского» и «Жития Сергия Радонежского»), Русский язык в научном освещении, №21, 2011, 査読有
- ② Ю. Маруяма, Распределение форм двойственного числа в Пространной редакции Жития Сергия Радонежского, Русский язык: исторические судьбы и современность. IV международный конгресс исследователей русского языка. Труды и материалы., p.76, 2010, 査読無  
[http://www.philol.msu.ru/~rlc2010/abstracts/rlc2010\\_abstracts\\_sec02.pdf](http://www.philol.msu.ru/~rlc2010/abstracts/rlc2010_abstracts_sec02.pdf)
- ③ 丸山 由紀子、モスクワ・ルーシ時代のロシア語文献におけるスラヴヤニズムの使用基準 — 『ペルミのステファン伝』 『ラドネシのセルギイ伝』 にみる双数形の用法 —、ロシア語ロシア文学研究、40 卷、1-8 頁、2008 年、査読有  
<http://www.soc.nii.ac.jp/robun/bulletin40.html>

[学会発表] (計 3 件)

- ① 丸山 由紀子、モスクワ時代初期の聖者伝における双数形の用法 — エピファニイ・プレムードルイとパホーミイ・ロゴフェートを中心に、日本ロシア文学会第 60 回研究発表会、2010 年 11 月 7 日、熊本学園大学
- ② 丸山 由紀子、Распределение форм двойственного числа в Пространной редакции Жития Сергия Радонежского, Русский язык: исторические судьбы и современность. IV международный конгресс исследователей русского языка., 2010 年 3 月 22 日、モスクワ国立大学(ロシア)
- ③ 丸山 由紀子、Особенности распределения форм двойственного числа в русских житийных текстах XV – XVI вв., 2009 俄羅斯語言學暨文學國際論壇、2009 年 11 月 21 日、淡江大學 (台湾)